

令和7年度 大阪市立董中学校のあゆみ

―結果概要とその分析から見えてきた成果と課題と今後の取組について―

《チャレンジテスト 3年》

【国語】

○結果の概要

- ・大阪府の平均点が64.2点であるのに対し、本校の平均点は75.7点であった。本校では他教科も大阪府の平均点を10点以上15点未満上回っている。ただ、他教科の大阪府の平均点はいずれも40点代後半から50点代前半と比較的低いなかで、国語の大阪府の平均点は他教科よりも10～20点程度高いにもかかわらず、本校ではそれをさらに11.5点も上回る結果となった。
- ・観点別に見ると、大阪府の知識・技能の平均点が35.3点なのに対して本校の平均点は41.8点であった。また、大阪府の思考・判断・表現の平均点が41.7点なのに対して本校の平均点は50.5点であった。(1つの設問が複数の区分に該当することがあるため、それぞれの分類について各区分の平均点を合計した値が、実際の平均点と一致しない。)
- ・問題の形式別に見ると、大阪府の選択式、短答式、記述式の平均点がそれぞれ36.2点、21.2点、6.7点なのに対して、本校の平均点はそれぞれ41.3点、25.9点、8.5点であった。

○成果と今後取り組むべき課題

《成果》

- ・上記の通り、国語では、本校は大阪府の平均を11.5点も上回る結果となった。これは大きな成果である。

《今後取り組むべき課題》

- ・国語の学力を向上させるために、日頃から漢字テストを定期的に行い、教材研究を重ねた授業プリントやICT教材を活用した授業の中で、記述の練習をしたり、グループワークを通して生徒の意見交流を行ったりして、基礎知識の定着を図ると同時に、生徒同士の交流を通して学びを深めている。これらの成果が発揮されたといえる。
- ・ただし、設問別の正答率に着目すると、1問だけではあるが、返り点や送り仮名など漢文の訓読に必要な基礎的な事項について理解しているかを問う問題のみ、大阪府平均の正答率が81.3%であるのに対して、本校の正答率は80.6%であり、全体的に正答率が高い問題ではあり、差もわずか0.7%ではあるものの下回っていた。無回答率に関しては、1問のみ、大阪府平均と同じ問題があったものの、後はすべて大阪府平均よりも低い無回答率となっている。今後も、定期的な漢字小テストの実施、より一層の教材研究を重ねた授業プリントやICT教材の活用、記述の機会の提供、意見交流などを通じた学びなどを通して、たゆまぬ努力を重ねて学力の向上に努めると同時に、知識一辺倒の授業になることのないように、生徒の心をひきつけて、教員も生徒も楽しみながら学習を進めたい。

【数学】

○結果の概要

大阪府の平均点が 53.9 点に足して本校の平均点は 67.8 点 (+13.9 点) であった。

また、無回答率は、大阪府 12.1 に対して、本校は 6.2 であった。設問ごとの正答率を見ても、大阪府平均をすべて上回る結果となった。

○成果と今後取り組むべき課題

≪成果≫

過去問題を何度も解くことにより、問題傾向を知り、自分の苦手な単元を把握することによって、大阪府平均を大きく上回る結果を出すことができた。

≪今後取り組むべき課題≫

関係を表す式を立てる問題を苦手とする生徒が多く、無回答率も上がっている。

また、わからない問題はあきらめてしまう生徒が多くみられるので、根気強く問題に取り組む力と自分の言葉で説明をする力を身に付けられるように授業の工夫していきたい。

平均より少し下の層を上げるために、習熟度別授業などを活用して基礎学力の強化を行う。一斉授業でも、グループワークなどを積極的に取り入れ、基礎基本の定着を図っていく。

【社会】

○結果の概要

・大阪府平均 51.2 に対し、学校平均が 62.1 となり、10.9 ポイント上回るという結果であった。

・地理／歴史の分野別に見ても、選択式／短答式／記述式の問題形式別に見ても、すべて大阪府平均を上回ることができた。

○成果と今後取り組むべき課題

≪成果≫

大阪府平均を大きく上回ることができたこと、どの分野・問題形式においても高い正答率であったことが成果である。無解答率についても、大阪府平均が 6.5% に対して、学校平均は 2.7% であったため、多くの生徒が粘り強く問題に向き合っていることがうかがえる。

設問別集計結果においては、正答率が 80% を上回る設問が 9 問もあり、これまでの授業で基本的な内容は、多くの生徒が習得できていることがわかる。正答率が大阪府平均を大きく上回っていた設問は、地理的分野では「北海道の漁業に関するグラフの読み取り」(+18.6)、歴史的分野では「不平等条約改正の過程で起こったできごとの並べ替え」(+16.1) であった。これまでの授業で、地理的分野ではさまざまなグラフや資料を活用することで資料活用能力

を身につけ、歴史的分野においては、できごとの流れや背景を整理してきたことの成果であると考えます。

《今後取り組むべき課題》

昨年度実施のチャレンジテスト（大阪府平均+15.6）と比較すると、今年度のチャレンジテストの方が大阪府平均との差が小さくなっていることがわかる。地理的分野・歴史的分野がすべて範囲となり、広範囲にわたる内容から出題されたことで、問題が複雑になったと感じている生徒が多いため、入試に向けてこれまでの授業内容の復習を取り入れ、1・2年生の内容を再度確認する必要がある。

また、記述式の設問では、無解答率が10%を超えていることから、理解した内容を自分の言葉で表現する力を育成する必要がある。さまざまな記述式の問題に取り組み、基本的な文章の書き方から確認していく。

【理科】

○結果の概要

- ・大阪府の平均点46.0点に対し、本校の平均点は57.0点であり、11.0点上回る結果となった。無回答率も大阪府は11.0に対し、本校は5.4と約半分の結果となり、意欲的に問題に取り組み、解答を記入しようという気持ちが表れていることがわかった。
- ・分野別で見ると、「エネルギー」が1.6ポイント、「粒子」が1.1ポイント、「生命」が4.5ポイント、「地球」が2.7ポイント上回った。
- ・評価の観点では、「知識・技能」が5.8ポイント、「思考・判断・表現」が5.3ポイント上回った。
- ・問題形式では、「選択式」が5.6ポイント、「短答式」が4.5ポイント、「記述式」が0.9ポイント上回った。

○成果と今後取り組むべき課題

《成果》

概ねよく理解していると考えられる。特に、生命分野（遺伝）の問題はよくできている。

知識の問題も、理解している生徒が多い。

無回答率もかなり低い。記述式や刺激を受け取ってから反応するまでにかかる時間を求める計算問題や、音が空気中を伝わる速さの計算問題では、他の問題に比べ正答率が低い。

《今後取り組むべき課題》

思考力を高めるために、日頃から受け身の授業ではなく、自分たちで考え、まとめる力を付けていきたい。また、年々長文や会話文の問題が増えているため、読解力をつけるような演習問題や入試問題も解く時間を増やしていきたい。

【英語】

○結果の概要

府平均 53.2 点に対して本校平均 65.5 点と、+12.3 ポイントであった。1 年時+10.2 ポイント、2 年時+12.4 ポイントと推移している。得点分布グラフでは、90～94 点の生徒が 25 名 (11.9%) と一番多い割合を占めており、次いで 95～100 点 21 名(10.0%)、85～89 点 19 名(9.0%)と高得点が取れた生徒が多かった。領域別平均点でみると、聞くこと+2.4 ポイント、読むこと+4.4 ポイント、書くこと+5.6 ポイントと書くことの点数がよく取れていることがわかる。また、問題形式別平均点において、選択式+7.2 ポイント、記述式+4.9 ポイントとなっており、記述問題について課題があると見受けられる。無回答率は大阪府よりも少ないが、空欄を埋めて会話を完成させる問題 3 問において、無回答率の平均が 12.4%となっている。(大阪府無回答平均 20.0%)

○成果と今後取り組むべき課題

《成果》

書くことが府平均を大きく上回った。文法の導入に生徒たちが自分事と考えられる身近な例文を使用したり、文法での問題で自己表現問題に取り組んだりしたこと、また、2 年生ではリテリングに取り組んだことがこの結果につながったと考える。

また、単語では一気に 25 個学習して、それを家庭で復習、次回の授業で復習、該当の本文でさらに復習と 1 つの単語に 4 回触れるようにしている。また、単語帳から毎週 50 問テストをして復習し、忘れていたものを思い出させる機会を作っていることも成果につながっている。

《今後取り組むべき課題》

府平均よりは少ないが無回答の生徒がいることから、英語に対して苦手意識が高く、取り組むこともしていない生徒が一定数いることが課題である。1 年生からの簡単な単語や基本的な文法事項が知識として蓄積できておらず問題に取り組みできない。また、苦手意識から解ける問題を見つけることもできずに実力が点数につながっていない生徒もいる。基本的な単語、文法事項を復習する機会を作り、少しでも英語に対して自信を持てるようにすること、また、入試問題に取り組んでたくさんある問題からできる問題を確実に点数につなげる練習をして、入試問題に備える。また、中間層についてもさらに英語力を伸ばすために、英単語の復習、不定詞、動名詞、分詞などの頻出の文法事項を復習する機会を設けて、さらなるレベルアップを図ることが必要である。全体でも帯活動で多読、速読を取り入れ、英文に慣れて WPM の向上をさせることで、どのレベルの生徒も英語力を上げる試みをする予定である。

令和7年度 大阪市立董中学校のあゆみ

—結果概要とその分析から見えてきた成果と課題と今後の取組について—

《チャレンジテスト 2年》

【国語】

○結果の概要

- ・大阪府の平均点が64.5点であるのに対し、本校の平均点は70.7点であった。本校では他教科も大阪府の平均点を6点以上12点未満上回っている。ただ、他教科の大阪府の平均点はいずれも40点代半ばから60点代前半と比較的低い中で、国語の大阪府の平均点は他教科よりも9~20点程度高いにもかかわらず、本校ではそれを更に6.2点も上回る結果となった。
- ・観点別に見ると、大阪府の知識・技能の平均点が34.1点なのに対して本校の平均点は38.5点であった。また、大阪府の思考・判断・表現の平均点が46.5点なのに対して本校の平均点は50.7点であった。(1つの設問が複数の区分に該当することがあるため、それぞれの分類について各区分の平均点を合計した値が、実際の平均点と一致しない。)
- ・問題の形式別に見ると、大阪府の選択式、短答式、記述式の平均点がそれぞれ29.0点、28.2点、7.2点なのに対して、本校の平均点はそれぞれ31.2点、31.5点、8.0点であった。

○成果と今後取り組むべき課題

《成果》

- ・上記の通り、国語では、本校は大阪府の平均を6.2点も上回る結果となった。これは大きな成果である。

《今後取り組むべき課題》

- ・国語の学力を向上させるために、日頃から漢字テストを定期的に行い、教材研究を重ねた授業プリントやICT教材を活用した授業の中で、記述の練習をしたり、グループワークを通して生徒の意見交流を行ったりして、基礎知識の定着を図ると同時に、生徒同士の交流を通して学びを深めている。これらの成果が発揮されたといえる。
- ・ただし、設問別の無回答率に着目すると、「本文中の言葉の意味として適しているものを選択する」、「スピーチの工夫の効果として適しているものを選択する」、「スピーチの原稿の下書き中の空欄に入る内容として適しているものを選択する」問題について、大阪府平均を0.1~0.3%上回っている。上記の問題に関する正答率は、大阪府平均を0.1%上回るのみとなっている。正答率全般に関しては、すべて大阪府平均よりも高い。今後も、定期的な漢字小テストの実施、より一層の教材研究を重ねた授業プリントやICT教材の活用、記述の機会の提供、意見交流などを通じた学びなどを通して、たゆまぬ努力を重ねて学力の向上に努めると同時に、知識一辺倒の授業になることのないように、生徒の心をひきつけて、教員も生徒も楽しみながら学習を進めたい。

【数学】

○結果の概要

大阪府の平均 55.0 点に対して、本校の平均点は 64.4 点と 9.4 点上回る結果であった。

最頻値においては 82 点と平均値より 27 点近い値であった。

中央値は大阪府平均より 12 点高い 69 点であった。

このことから、本校は一部の上位層だけでなく、中枢をなす層においても安定して高い結果が得られていることがわかる。全体として底上げされた学力水準が伺える。

○成果と今後取り組むべき課題

《成果》

高得点層の割合が高く、中間層も厚いため、全体の底上げができています。

各分野においても大阪府平均を安定して上回っているが、その中でも数と式の得点の割合が、大阪府平均より+9.1%と最も高かった。また記述式の問題においては大阪府平均に比べて 17.1%高いが、得点率が 43.2%と半分以下である。

《今後取り組むべき課題》

基本的な内容の確実な定着を図るため、個に応じた学習をする時間をとる必要がある。

特に中位層から下位層に対しては、反復練習や小テスト等を通じて基礎の定着を図ることが重要である。

また、記述式問題への対応力向上に向けて、考え方を言語化する活動や説明する機会を授業内で設定し、表現力の育成を図る。

【社会】

○結果の概要

- ・大阪府の平均点が 44.3 点であるのに対し、本校の平均点は 50.3 点であった。本校では他教科も大阪府の平均点を 6 点以上 12 点未満上回っている。その中では、社会科は大阪府全体の平均点も低く、他校が苦戦している状況の中、本校は平均が 50 点を超えることができた。
- ・観点別に見ると、大阪府の知識・技能の平均点が 36.8 点なのに対して本校の平均点は 41.3 点であった。また、大阪府の思考・判断・表現の平均点が 7.5 点なのに対して本校の平均点は 9.0 点であった。
- ・問題の形式別に見ると、大阪府の選択式、短答式、記述式の平均点をどの形式も上回っていた。
- ・全体的に見てもよく頑張っており学習できている。

○成果と今後取り組むべき課題

≪成果≫

- ・いずれにおいても大阪府の平均を上回っており、普段からの学習の成果が表れている。

≪今後取り組むべき課題≫

- ・ある出来事に関する時系列の問題の正解率が、大阪府の平均を下回っており、物事の事象だけではなく、年代やその時系列に関しても詳しく説明していく必要があると感じている。
- ・入試も含めて、資料を読み取り答えを導き出す問題が多くなってきている。語句だけを学習させるやり方ではなく、しっかりと文章を読んで、回答へ繋げていく能力も育てていきたい。

【理科】

○結果の概要

分野によって課題があるが、個々が努力して勉強していることがわかる。

<課題>

- ① 生物：植物の内容よりも体の器官などの問題を優先的に復習する。
器官や血液の流れを含めた「細かい箇所」を覚えきれていない
- ② 物質：基礎的な物質計算はできる。しかし、問われる物質の質量が変わると、イメージ化が苦手な生徒が増える。計算方法を知っているが、文章の読解力に課題がある。
- ③ 地球：教科書に載っている実験器具と違うと、関連付けることが難しくなる。

○成果と今後取り組むべき課題

≪成果≫

基本的なことをコツコツと積み重ねることができたので、大阪府平均よりも高かった。

≪今後取り組むべき課題≫

- ① 生物：植物の内容よりも体の器官などの問題を優先的に復習する。
器官や血液の流れを含めた「細かい箇所」を覚えきれていないため、再度覚えなおしが必要である。

<対策>

一問一答や血液などの流れを可視化（イラスト化）して覚えなおさせる。

- ② 物質：基礎的な物質計算はできる。しかし、問われる物質の質量が変わると、イメージ化が苦手な生徒が増える。計算方法を知っているが、文章の読解力に課題がある。

<対策>

図やイラストでイメージ化をさせ、どこの質量を問われているのかを「はっきり」させながら、問題を解かせるようにする。

② 地球：教科書に載っている実験器具と違うと、関連付けることが難しくなる。

<対策>

問題演習の時間に内容は同じでも、実験の仕方を変えた問いを取り入れる。

【英語】

○大阪府の平均が 51.8、本校の平均が 58.1 と、6.3 ポイント上回ることができた。学習指導要領の領域等別では、「書くこと」は 3.1 ポイント上回ったが、「聞くこと」「読むこと」に関しては 1.7 と 1.6 ポイントの伸びだった。評価の観点別では、「知識・技能」3.8 ポイント、「思考・判断・表現」2.6 ポイントほど上回った。問題形式別では、「選択式」は 4.6 ポイント上回ったが、「短答式」「記述式」に関しては、0.6 と 1.1 の伸びだった。

○成果と今後取り組むべき課題

≪成果≫

- ・上記の通り、英語では、本校は大阪府の平均を 6.3 ポイントも上回る結果となった。これは大きな成果である。

≪今後取り組むべき課題≫

- ・聞くことの領域では、会話の応答を選ぶ問題や質問に対する答えを選ぶ正答率が高い一方で、時刻を含む情報を読み取る問題では正答率があまり良くなかった。会話文が長くなり聞き取る量が増えると苦手に感じるようだ。学年末テストでも同じように長めで情報量が多いと難しくなったと言う生徒が多かった。
- ・書くことの領域では、記述式が苦手な空欄に入る英語を書く問題や、文章問題を読み取り内容を理解したうえで解く問題の正答率が低く、無回答率が高かった。
- ・聞く力を高めるには、より長めの英会話に慣れるよう触れる機会を増やし、書く力を高めるには文法の問題で、記述で答える問題を今より増やしていく必要がある。英語が苦手な生徒には難しく感じると思うが取り組みたいと思えるよう復習や習熟度、TTなどで対策をしていきたい。

令和7年度 大阪市立董中学校のあゆみ

—結果概要とその分析から見てきた成果と課題と今後の取組について—

《チャレンジテスト 1年》

【国語】

○結果の概要

- ・大阪府の平均点が、63.1点に対して、本校の平均点が69.8点であった。無回答率についても、大阪府平均が10.2%に対して、本校の平均が7.1%であった。
- ・分類、区別集計結果については、すべての項目で大阪府平均を上回っていた。また、問題の形式別についても同様の結果がみられた。各評価の観点【知識・技能】府平均36.9点に対し、本校41.1点。【思考・判断・表現】府平均46.4点に対し、本校51.6点という結果であった。問題形式【選択式】府平均31.9点に対し、本校34.2点。【短答式】府平均26.2点に対し、29.1点。【記述式】府平均5.1点に対し、本校6.4点であった。

○成果と今後取り組むべき課題

《成果》

- ・【自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫する】【話の内容をとらえる】【文章全体と部分の関係を考えて報告文を書くことができる】【読み手を意識し、必要な情報を取捨選択して書くことができる】などの出題の趣旨について、府平均よりも10点程度高いポイントをとっている。これについては、主体的で対話的な深い学びの実践を通じて、培われてきた力であると考え。今後についても、グループワークや学びあいを通じて伸ばしていきたい。

《今後取り組むべき課題》

- ・漢字の書き取りや語句の意味などの知識については、府平均との差が少し高い程度であった。そのため、小テストを通じて、学習内容の定着を図っていく。

【数学】

○結果の概要

大阪府平均56.7点に対して、本校の平均点は62.0と約5点上回る結果となった。また、中央値においても、大阪府58.0点に対して、本校64.0点と約6点上回っている。これより、全体的に府平均と比べると、それよりも高い水準にある生徒が多いことがわかる。

○成果と今後取り組むべき課題

《成果》

本校は各分野においても大阪府平均を安定して上回っており、無回答率も低くなっている。また、「図形」についての得点の割合が大阪府平均よりも約+8点と最も高かった。

《今後取り組むべき課題》

平均点や中央値が高い一方で、中位層から下位層にも分布している。その生徒に対して、個々にあったレベルの問題や基礎的な計算、図形の特徴の再確認など、復習を丁寧にしていく時間を設ける必要がある。また、記述問題について、得点率が低いので、考え方を言語化する活動や説明する機会を授業内で設定し、表現力の育成を図る。

【英語】

○結果の概要

- ・大阪府の平均点が65.2点であるのに対し、本校の平均点は71.5点であった。無回答率も大阪府の平均が4.9%であるのに対し、本校の平均点は3.2%であり無回答率を低く抑えることができた。本校では他教科も大阪府の平均点を6点以上12点未満上回っている。
- ・観点別にみても、知識・理解において大阪府が32.6点であるのに対し、本校は35.4点であり、3点以上上回ることができた。思考・判断・表現においても、大阪府が32.6点であるのに対し、本校は36点であった。
- ・問題形式で見ると、選択式が大阪府平均が57.1点であるのに対し、本校は61.3点であった。ただし、短答式については大阪府平均が0.3点であるのに対し、本校は0.2点であり、0.1下回った。記述式については、大阪府平均が7.8点に対し、本校は10点であった。
- ・全体的に見てもよく頑張っており学習できている。

○成果と今後取り組むべき課題

《成果》

- ・「聞くこと」が大阪府平均を大きく上回った。教科書のリスニングや付属ワークのリスニングなどで、集中して聞く練習をしてきた成果だと考える。リスニングにおいては無回答率がほぼ0%で抑えることができた。

《今後取り組むべき課題》

- ・大阪府平均よりは少ないが、無回答の生徒がいることから、英語に対して苦手意識が高く、取り組むこともしていない生徒が一定数いることが課題である。小学校の頃は聞くこと・話すこと（リッスン・アンド・リピート）であった領域から、文法を理解して自ら解く・書くことになると、簡単な英単語や基本的な文法事項が知識として蓄積できておらず問題に取り組むことができない。また、苦手意識から解ける問題を見つけることもできずに実力が点数につながっていない生徒もいることが課題である。基本的な単語、文法事項を復習する機会を作り、少しでも英語に対して自信を持てるように対策をし、2年生へとつなげていく。

《チャレンジ Plus 1年》

【社会】

○結果の概要

- ・大阪市の平均正答率が58.3%であるのに対し、本校の平均率は66.0%であった。本校では他教科も国語、数学、英語では大阪府の平均点を5点以上、理科では12%以上上回っている。その中で、社会科は大阪市全体の平均正答率も低く、他校が苦戦している状況の中、本校は平均正答率が60点%を超えることができた。
- ・観点別に見ると、大阪市の知識・技能の平均正答率が59%なのに対して本校の正答率は66.4%であった。また、大阪市の思考・判断・表現の平均正答率が56.3%なのに対して本校の正答率は64.1%であった。
- ・問題を内容別、領域別に分けた場合でも、全ての分野で大阪市平均正答率を上回っている。

○成果と今後取り組むべき課題

《成果》

- ・大阪市の平均を大きく上回っており、普段からの学習の成果が表れている。

《今後取り組むべき課題》

- ・引き続き、社会科に対する興味関心を高める授業に取り組む。

【理科】

○結果の概要

大阪市平均63.0点に対して、本校の平均点は75.7点と、約12点上回る結果となった。また、中央値においても、大阪市が60～69点の階級にあるのに対して、本校は90～99点の階級にある。以上の結果から、全体的に市平均と比べると、それよりも高い水準にある生徒が多いことがわかる。

○成果と今後取り組むべき課題

《成果》

本校は、各分野においても大阪市平均を安定して上回っており、正答率に着目すると、どの分類においても70%を超える結果となった。特に、思考・判断・表現の観点や、短答式の問題等、大阪市平均が低くなる問題についても、正答率は72%を超えていた。また、短答式の問題の正答率が、大阪市平均よりも+13.9点と最も高かった。

《今後取り組むべき課題》

平均値や中央が高い一方で、正答率が10%を下回る生徒もいる結果となった。それらの生徒に対して個別の対応を行う必要がある。普段の授業は欠席がほとんどだが、テスト当日のみ参加した生徒も数名おり、割合からその2～3名が該当すると推測される。日々の授業でも苦手な生徒が参加しやすい雰囲気づくりや、授業への参加が時々であっても理解しやすいよう復習を丁寧に行う時間を設ける必要がある。また、記述問題について正答率が約70%と最も低い結果となったので、自身の考えを説明する活動やレポート作成の機会を授業内で設定し、表現力の育成を図る。